

離婚についての真理、パート 1

Grace to you 「The Truth About Divorce, Part 1」より翻訳
Mark 10:1-12

マルコによる福音書 10:1-2

離婚という主題を取り上げます。なぜなら、それはマルコによる福音書 10 章にある主の教えの主題だからです。マルコによる福音書 10 章では、この章の冒頭の 12 節を見ていきます。この章は 2 部構成で、1 部は今朝、もう 1 部は来週の日曜日です。ですから、この主題に関連するすべての問題に触れていないのはなぜだろうと皆さんが不思議に思わないように、そのことをお知らせしておきます。来週の日曜日までそれはできません。来週の日曜日の朝にこのテキストを終えます。そして、来週の日曜日の夕方には、コリント人への手紙第 1 章 7 節から離婚の問題について特別なメッセージを加えるつもりです。

そうすれば、離婚について聖書が何を教えているか、全体像がつかめるでしょう。また、「Grace Today」では、「離婚のジレンマ (The Divorce Dilemma)」という本について少しお知らせしています。この本は、聖書を通してこれらの問題を理解するのに役立つ便利なガイドです。マルコによる福音書第 10 章「離婚についての真理」をすすめていきましょう。

さて、もしあなたが「神は離婚をどう見ているのか？」と質問するなら、短い答えがあります。その短い答えは、旧約聖書の最後の預言であるマラキ書、第 2 章 16 節で神自身が与えています。そこで神は「私は離婚を憎む」と言っています。私は離婚を憎む。それが、人間社会で広く受け入れられ、非常に人気があり、昔から受け継がれてきた制度に対する神の態度です。神は離婚を憎みます。

旧約聖書の終わりに、預言者マラキを通して神がそのように言われたのはなぜでしょうか。その答えは、歴史の中で見ることができます。ユダヤ人はバビロンの捕囚から帰還しました。偶像崇拜のため、彼らはバビロンに捕らえられたことを覚えていますか。3 度の強制移住がありました。彼らは基本的に 70 年間バビロンにいましたが、その後、再建のためイスラエルに戻ることを許されました。彼らは紀元前 536 年頃にバビロンから帰還しました。

20 年以内に、彼らはエルサレムの町と神殿を再建しました。これは、バビロニア人が町を略奪したときに破壊されたソロモンの神殿に比べれば、質素な神殿でした。しかし、神殿は再建され、神殿となり、犠牲の捧げ物が新たに捧げられました。こうして、彼らは町を持ち、城壁を持ち、国家として構成され、今や神殿を持ち、犠牲を捧げ、礼拝していました。100 年以内に、彼らは宗教をならわし（慣例、儀式）にしました。彼らは神から背いたのです。

彼らは偶像崇拝者ではありませんでした。バビロン捕囚によって、彼らは偶像崇拝から完全に解放され、今日に至っています。しかし、彼らは自分たちの宗教を単なる外面的な儀式に過ぎませんで

した。マラキは、神に対する彼らの態度が卑しく、不義で、心が頑なだと指摘しています。彼らは、自分たちが維持していた宗教の形と、罪と不従順で満ちた心によって特徴づけられました。マラキは彼らを告発するために預言書を書きました。マラキは彼らの罪について語り、非常に具体的な言葉で彼らの罪を定義し、悔い改めを呼びかけました。

さて、マラキはいわゆる捕囚後の預言者です。捕囚後、帰還後に預言しました。これは、おそらく皆さんがよくご存知のネヘミヤの世界に彼を位置づけるものです。ネヘミヤ記は旧約聖書の中ではずっと前のものですが、年代順ではマラキと同じ時期に属します。歴史書なので前に置かれています。マラキは預言書なので、他の預言者たちと一緒に最後に位置づけられています。

ネヘミヤが指摘した罪は、マラキが指摘した罪とまったく同じでした。ネヘミヤとネヘミヤ記の最後の章を見てみましょう。ネヘミヤ記の最後の章は、年代順に旧約聖書の歴史の最後の章になります。ネヘミヤ記の第 13 章は、旧約聖書の歴史の展開における最後の章です。ネヘミヤは、イスラエルの民に特有の罪を特定しています。13 章 23 節、「そのころまた、私はアシュドデ人、アモン人、モアブ人の女をめとっているユダヤ人たちのいるのに気がついた。」偶像崇拜の女性、異教徒です。

「彼らの子どもの半分はアシュドデのことばを話し、あるいは、それぞれ他の国語を話して、ユダヤのことばがわからなかった。そこで、私は彼らを詰問してのろい、そのうちの数人を打ち、その毛を引き抜き、彼らの神にかけて誓わせて言った。『あなたがたの娘を彼らの息子にとつがせてはならない。また、あなたがたの息子、あるいは、あなたがた自身が、彼らの娘をめとってはならない。イスラエルの王ソロモンは、このことによって罪を犯したではないか。多くの国々のうちで彼のような王はいなかった。彼は神に愛され、神は彼をイスラエル全土を治める王としたのに、外国の女たちが彼に罪を犯させてしまった。だから、あなたが外国の女をめとって、私たちの神に対して不信の罪を犯し、このような大きな悪を行っていることを聞き流しにできようか。』大祭司エルヤシブの子エホヤダの子のひとり、ホロン人サヌバラテの婿であった。それで、私は彼を私のところから追い出した。」サヌバラテはエルサレムの再建を阻止しようとした一人です。

29 節「私の神。どうか彼らのことを思い出してください。彼らは祭司職を汚し、祭司やレビ人たちの契約を汚したからです。」

祭司たちと彼らに従う民の間での混血結婚。これがとても悪いのは、彼らがユダヤ人の妻と離婚して、異邦人の女性と結婚したからです。彼らはユダヤ人の妻と離婚して、異邦人の女性と結婚しました。これがマラキの非難にあたります。マラキ書 2 章をご覧ください。ネヘミヤがその歴史とそれに対する彼の反応を語っています。そして今、私たちは預言者を通して神から直接、神の視点を得ています。この章を皆さんに説明して、この発言の厳しさを理解していただく必要があります。

1 節には、「祭司たちよ。今、この命令があなたがたに下される。」とあります。ホセアが言ったように、民も祭司たちも同じように。祭司たちは、ユダヤ人の妻を離婚し、異邦人の女性と結婚することで、このことを主導していました。

「もし、あなたがたが聞き入れず、もし、わたしの名に栄光を帰することを心に留めないなら、一万

軍の主は仰せられる―」これはマラキが語っているのではなく、神が預言者を通して語っているのです。「わたしは、あなたがたの中にのろいを送り、あなたがたへの祝福をのろいに変える。もう、それをのろいに変えている。あなたがたが、これを心に留めないからだ。」

「見よ。わたしは、あなたがたの子孫を責め、あなたがたの顔に糞をまき散らす。あなたがたの祭りの糞を。あなたがたはそれとともに投げ捨てられる。このとき、あなたがたは、わたしが、レビとのわたしの契約を保つために、あなたがたにこの命令を送ったことを知ろう。」祭司職はレビの腰から出ました。彼らは皆レビ人でした。「一万軍の主は仰せられる― わたしの彼との契約は、いのちと平和であって、わたしは、それらを彼に与えた。それは恐れであったので、彼は、わたしを恐れ、わたしの名の前におののいた。」

「彼の口には真理の教えがあり、彼のくちびるには不正がなかった。平和と公正のうちに、彼はわたしとともに歩み、多くの者を罪から立ち返らせた。祭司のくちびるは知識を守り、人々は彼の口から教えを求める。彼は万軍の主の使いであるからだ。しかし、あなたがたは道からはずれ、多くの者を教えによってつまづかせ、レビとの契約をそこなった。一万軍の主は仰せられる― わたしもまた、あなたがたを、すべての民にさげすまれ、軽んじられる者とする。あなたがたがわたしの道を守らず、えこひいきをして教えたからだ。」

「私たちはみな、ただひとりの父を持っているではないか。ただひとりの神が、私たちを創造したではないか。なぜ私たちは、互いに裏切り合い、私たちの先祖の契約を汚すのか。ユダは裏切り、イスラエルとエルサレムの中では忌まわしいことが行われている。まことにユダは、主の愛された主の聖所を汚し、外国の神の娘をめとった。」

冒瀆とは、これらの異邦人の女性と結婚することでした。「どうか主が、このようなことをする者を、たといその者が万軍の主にささげ物をささげても、ひとり残らずヤコブの天幕から断ってくださるように。あなたがたはもう一つのことをしている。あなたがたは、涙と、悲鳴と、嘆きで主の祭壇をおおっている。主がもうささげ物を顧みず、あなたがたの手からそれを喜んで受け取らないからだ。『なぜなのか』とあなたがたは言う。」

「それは主が、あなたとあなたの若い時の妻との証人であり」 - これが告発文です - 「あなたがその妻を裏切ったからだ。彼女はあなたの伴侶であり、あなたの契約の妻であるのに。神は人を一体に造られたのではないか。彼には、霊の残りがあつた。その一体は人は何を求めるのか。神の子孫ではないか。あなたがたは、あなたがたの霊に注意せよ。あなたの若い時の妻を裏切ってはならない。『わたしは、離婚を憎む』とイスラエルの神、主は仰せられる。」

彼らがしていたのは、ユダヤ人の妻と離婚して異教徒の異邦人女性と結婚することでした。旧約聖書の歴史は、基本的にこうして終わります。ネヘミヤとマラキは、祭司と民に向けた旧約聖書の最後の言葉として、「妻と離婚してはならない。私は離婚を憎む」と語っています。400年後、新約聖書時代のマルコによる福音書にたどり着き、10章に戻ってください。離婚は今や高貴な選択肢、正しい行為として再確立されています。

主の時代のユダヤ人は、離婚を容認するための合理化された枠組みを持っていました。彼らは離婚に取り組んでいました。それはイスラエルの文化に蔓延しており、マラキとネヘミヤによって 400 年前に最初に告発された祭司たちもその例外ではありませんでした。イスラエルの地で広く行われていた離婚の問題が、この章の冒頭の節の主題となっています。それを読み上げましょう。

「イエスは、そこを立って、ユダヤ地方とヨルダンの向こうに行かれた。すると、群衆がまたみもとに集まって来たので、またいつものように彼らを教えられた。すると、パリサイ人たちがみもとにやって来て、夫が妻を離別することは許されるかどうかと質問した。イエスをためそうとしたのである。イエスは答えて言われた。『モーセはあなたがたに、何と命じていますか。』彼らは言った。『モーセは、離婚状を書いて妻を離別することを許しました。』」

「イエスは言われた。『モーセは、あなたがたの心がかたくななので、この命令をあなたがたに書いたのです。しかし、創造の初めから、神は、人を男と女に造られたのです。それゆえ、人はその父と母を離れ、ふたりは一体となるのです。それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。』」

「家に戻った弟子たちが、この問題についてイエスに尋ねた。そこで、イエスは彼らに言われた。『だれでも、妻を離別して別の女を妻にするなら、前の妻に対して姦淫を犯すのです。妻も、夫を離別して別の男にとつぐなら、姦淫を犯しているのです。』」非常に率直です。神が結び合わせたものを、引き離してはいけません。もし引き離して再婚するなら、あなたは姦淫者です。

これは現代の私たちにとって非常に適切な情報ではないでしょうか。私たちは、社会が単なる流行ではなく、生き方、結婚という神聖な絆が驚くべき速さで断ち切られ、教会もこの恐ろしい流行から逃れられていないという憂慮すべき事実を扱っていることを認識せざるを得ません。

さて、私が皆さんに言いたいのは、一般的に社会が何を許すか、その社会の法律が何を許すかは、私たちにとっては重要ではないということです。私たちにとって重要なのは神の言葉です。そうでしょうか？神の言葉です。主はこれについて何とおっしゃるでしょうか？神の啓示は私たちに何を求めておられるでしょうか？

離婚の問題について、混乱した議論が繰り広げられていることに、私は長年にわたり何度も驚かされてきました。さまざまな意見が飛び交っています。しかし、私は単純な人間なので、いつもこう自問します。「主がこれを言われた当時、そこにいた人々はどう思っただろうか？」

もしあなたが、聖書の箇所にかかれていない情報に基づいて、離婚について複雑で入り組んだ見解を私に提示するなら、私はそれが間違った見解であると仮定します。なぜなら、イエスが何を言ったとしても、イエスは人々に自分の意図を理解してもらいたかったから言ったのです。ですから、聖書の箇所だけを読めば、それほど難しいことではありません。聖書は不明瞭ではありません。

しかし、離婚の問題には多くの抵抗があります。教会には、どうやってでも離婚を認めようとする人々がいます。彼らは、聖書から抽出した離婚の公式を考案し、人々がさまざまな理由で離婚する

自由を大いに与えようとしています。一方、離婚を恐れる強硬派の人たちもいて、彼らは、離婚なし、そのような時もなし、いかなる状況でも再婚なしと、全員を閉じ込めたいと考えています。これは、広く普及した見解です。

かつて、私が中西部北部のミシガン州にいたときのことを思い出します。全国でセミナーを開催している非常に有名な教師と一緒にいました。彼はそこにセンターを持っていて、私も一緒にそこにいました。私たちはミシガン州北部の地域の小道を歩いていました。そこは美しい地域で、夏でした。彼は国中を回って、誰に対しても、いつでも、離婚も再婚も決してしてはならない、離婚は罪であり、再婚すれば永久に姦淫者であると説いていました。これが彼の考えでした。

そして私たちは歩きながら、彼は私にこう言いました。「福音書の例外条項についてどう思いますか？」私は言いました。「つまり、もしあなたが、ポルネイア（淫行）以外の理由で妻と離婚したら、姦淫を犯したことになるということですか？」それはマタイ 19 章で与えられた唯一の例外です。「私はそれについてどう思いますか？」私は言いました。「それは聖書に書いてあると思います。聖書に書いてあるでしょう？」

彼は「私は例外条項を信じない」と言いました。私は「聖書を信じながら、例外条項を信じないなんてあり得ますか？ 聖書に書いてあるじゃないですか」と言いました。彼は「理由を教えてあげましょう。あのカナダガンを見てください」と言いました。私が見てみると、金網の柵で囲まれた大きな囲いがあり、この土地にはカナダガンがたくさんいました。彼らはそれを、よく分かりませんが、ただの野生動物として飼っていたのです。彼は「私たちは彼らの翼をすべて切って飛べないようにして世話をしています。彼らがこの場所の雰囲気盛り上げているのです」と言いました。

彼はこう言いました。「ある日、フェンスに穴があいて、みんな逃げ出そうとして、たくさんの鳥が死んでしまいました。だから私は例外条項を信じません。穴があれば、皆そこに入って行ってしまうからです。」そのポイントで、私は到底信じられませんでした。そしてこう言いました。「では、もしガチョウがいなければ、例外条項はどういう意味を持ちますか？」冗談でしょう。ガチョウが何と関係があるというのですか？ガチョウから神学を作ることにはできません。しかし、誰かが穴を通り抜けるかもしれないから、それが離婚・再婚禁止法の彼の正当化だったのです。

それで、ガチョウのこと、強硬派のこと、寛容派のことを忘れて、聖書が何と言っているかを見て、聖書がこの主題について正確に何を示しているかを見つけましょう。1 節から始めましょう。これは一つの変遷のポイントなので、少し状況を説明しなければなりません。

マタイ 19 章はこれと平行してこう言っています、「イエスはこの話を終えると、ガリラヤを去って、ヨルダンの向こうにあるユダヤ地方に行かれた。」それがどんな教えだったかはわかっています。マルコ 9:33 にあるように、イエスはカペナウムの家において、謙遜と徹底した弟子としての生き方について教えていたのです。

最後の二つのメッセージを思い出してください。それを終えると、イエスはラビの教えの姿勢で座り、立ち上がってそこから出発されました。イエスはカペナウムを去り、ガリラヤを去りました。こ

これは、私たちが深く関わってきたガリラヤでの宣教の終わりです。1年以上もの間、主はガリラヤで宣教されました。そして今、それは終わりました。イエスは立ち上がって出発し、ユダヤ地方へ向かわれています。イエスはそこから弟子たちとともにユダヤ地方へ行き、そこで死なれるまでの約 6 か月を過ごされました。イエスはユダヤ地方の町や村を巡り、ガリラヤで行ったのと同じように、説教し、教え、奇跡を行いました。

マタイとマルコはユダヤでの宣教の歴史を語っていませんが、ルカは語っています。実際、ルカ 10 章から 18 章まで、その部分全体がユダヤでの宣教についてです。ヨハネは 7 章から 11 章まで語っています。ですから、ルカとヨハネの両方にユダヤでの宣教の記録があります。マルコは基本的にそれを飛ばしていますし、マタイも飛ばしています。マルコは私たちをヨルダン川の向こうに連れて行きます。そこを見に行きましょう。マルコは私たちをヨルダン川の向こうに連れて行きます。彼はそこからユダヤ地方に行き、6 か月が経ち、ヨルダン川の向こうに行きました。この地域はペレアと呼ばれています。ペレアは東のヨルダン川の向こうにあり、ガリラヤ湖からエリコの町までずっと続いています。

その東側全域は、ユダヤ人が言うところの「彼方」、ペレア地方です。そこは、イエスがエルサレムへ最後の旅をして死なれるところでした。ヨハネによる福音書第 10 章 40 節から 42 節によると、イエスはペレアにいました。そこには大勢の人がいました。イエスは最後の時にそこで宣教をしていました。なぜでしょう？ イエスがガリラヤを去ったとき、ガリラヤの敵意から逃れたからです。ユダヤに 6 か月滞在したことで、ユダヤの敵意はエスカレートし、イエスは亡くな死なれる前の最後の短い時間をヨルダン川を渡ってペレアで過ごしました。

ですから、第 10 章では、ペレアでのイエスの宣教活動が描かれています。これは 1 章だけです。先ほども述べたように、マルコは 6 か月のことについてさえ語っておらず、1 章しかありません。そして、第 11 章 1 節で、イエスはエルサレムに入られます。エルサレムに下ったガリラヤのユダヤ人は、過ぎ越しが近づいていたため、今からエルサレムに下って行くこととなります。イエスがそこへ行ったのは、過ぎ越しのためでした。ガリラヤのユダヤ人は、ヨルダン川の東側を南下しました。なぜなら、西側にいると、サマリアを通ることになるからです。彼らは、サマリア人が異人種間の結婚による混血であるため、彼らを憎んでいました。

そして彼らは皆、東側を下り、エリコまでずっと下り、エリコからエルサレムまで上って行きました。そして私たちの主は、宣教の最後の時に、そこに大勢の群衆を見つけられたのです。それは、ヘロデ大王の治世中にそこに移住した多くのユダヤ人がいて、彼らはそこに住んでいましたが、エルサレムへ向かう途中で横断する巡礼者もたくさんいたからです。

すでに述べたように、そこにはユダヤ人の人口が多く、それは現在の支配者ヘロデ・アンティパスの父であるヘロデ大王の治世中に発展しました。ですから、ここでは群衆がイエスの周りに集まっていたと書かれています。それはその地域に住んでいたユダヤ人と、祭りが近づいていたころに移住が始まったエルサレムに向かう巡礼者たちだったでしょう。

そして、イエスはいつものように、習慣どおりに彼らに教え始め、マタイは「そこで彼らを癒され

た」と付け加えています。マタイ 19 章 2 節です。ですから、それはイエスがガリラヤでとったのと同じやり方です。イエスは癒し、その慈悲と神の性質と神の力を実証しながら、救い、悔い改め、神の国、救いについての真理について教えられました。

さて、この出来事が起こったとき、イエスはエルサレムに向かう途中でした。32 節を見ると、彼らはエルサレムに向かう途中にいたことがわかります。46 節では、彼らはエルサレムのすぐ下にあるエリコに着きました。つまり、彼らが行っている道はそこです。

ペレアにいる間、イエスは執拗な敵であるパリサイ人から追われ、決して放っておきませんでした。彼らは人々の間でイエスの評判を落としたい、イエスの評判を失墜させたい、そしてイエスを滅ぼしたいのです。第 3 章 6 節で、彼らがヘロデ党員たちに同情してイエスを殺そうとしているのを見ました。私たちはその話のすべてを知っています。そして彼らはいつもの邪悪な意図を持ってそこにいるのです。

さて、それでは 2 節の本文に入ります。これを対決と呼びましょう。いいですか？対決です。「すると、パリサイ人たちがみもとにやって来て、夫が妻を離別することは許されるかどうかと質問した。イエスをためそうとしたのである。」さて、このことの要点は情報ではありません。そうでしょうか？これは彼らが欲しがっているのは情報ではありません。これは失敗を目的としたイエスへの試み、誘い出すものです。私は彼らを称賛しなければなりません。彼らは努力するたびに完全に敗北したにもかかわらず、努力を続けました。そして、後で見るように、最後の週にはさらに悪化しました。

しかし彼らはまた戻ってきて、イエスの信用を落とす方法、さらにはイエスを滅ぼす方法を探していました。そこで彼らは質問を投げかけました。信じてください、これは何時間もの熟考から生まれた質問です。彼らは何を尋ねるべきか、自分たちがどこにいるか、自分たちがいる場所でそれを尋ねることがいかに適切であるかを知っていました。そこで彼らはイエスのもとにやって来て、この大群衆の前ではイエスが合格できない試練をイエスに課そうとしました。そして彼らはイエスに質問し始めました。その質問とは、「夫が妻を離縁することは、律法にかなっていますか？」というものです。マタイはこう付け加えています。「夫が妻を離縁することは、どんな理由でも、律法にかなっていますか？」

これは無作為な質問ではありません。これは非常に鋭敏で計算された問題です。その理由は次のとおりです。離婚は指導者の間でも民の間でも一般的であり、離婚は彼らの罪を許すものでした。自分の意志で離婚した人々は離婚を好みました。指導者たちは離婚を好みました。離婚したいと思ったら、自由に離婚できました。旧約聖書の基準はずっと前に廃止され、その代わりに、融通の利くラビの見解が離婚を容易にしました。実際、パリサイ人は霊的な模範であり、自由な離婚のパレードを先導していました。

この問題に関する支配的な意見は、ヒレルというラビによって示されました。ヒレルというラビは、この約 20 年前に亡くなっていましたが、彼の意見が優勢でした。そして、ヒレルというラビは、「どんな理由であっても、その女性をやっかい払いできる」と言いました。この離婚の主導権を握っていたのは男性であり、夕食を焦がした、誰かに足首が見えるようになるくるくる回った、比喻では

なく文字通り髪を下ろした、男性に話しかけた、母親について否定的なコメントをした、または他に好みの女性を見つけたという理由で妻と離婚できましたし、その女性が不妊の場合には、離婚する義務がありました。

それが当時の支配的な見解でした。離婚は、今日我が国で行われているのと全く同じで、どんな理由でも、いかなる理由でも認められていました。パリサイ人たちがこの点についてイエスの言うことを聞こうとしたことは疑いようがありません。彼らが質問したのはそのためです。マタイの福音書第 5 章で、イエスはこう言われました。「わたしはあなたがたに言います。だれであっても、不貞以外の理由で妻を離別する者は、」これは例外条項です、「妻に姦淫を犯させるのです。また、だれでも、離別された女と結婚すれば、姦淫を犯すのです。」イエスが言われたのは、正当な理由もなく妻を離婚するなら、再婚するときに妻もあなたも姦淫者になるということです。彼らはそれを聞いていたのです。

イエスは何度もあらゆる機会ですう言ったに違いありません。彼らはこれを強硬路線と見なしています。強硬路線です。彼らは群衆にイエスを強硬派として見てもらいたいのです。彼らは群衆が突然自意識過剰になることを望んでいます。彼らは群衆がイエスに背を向けることを望んでいます。そうすれば、イエスは彼らを姦淫者と姦婦と見なして罪を犯すことになります。イエスは群衆を自分に背かせることができます。パリサイ人たちは、イエスが以前に言ったことをもう一度言うだけで、群衆をすぐに背かせることができると考えたに違いありません。イエスの人気は壊滅したでしょう。「あなたたちはみんな姦淫者の集まりだ。」

想像できるでしょう。私は全国放送のテレビに出て、「結婚せずに同棲している人はみんな姦淫者で、聖書の根拠なしに離婚した人はみんな姦淫者だ」と言う機会を待っています。そうしたら私の人気はどうなるでしょう？国民全体があなたに背を向け、私は何者でもないとみなされるでしょう。それが彼らの望みです。もし彼らがイエスの不寛容さを示し、イエスが偉大なラビやラビが許す生き方をしている人々と対立していることを示すことができれば、彼らはイエスの信用を失墜させることができるでしょう。

しかし、それだけではありません。彼らがどこにいるかを思い出してください。彼らはペレアにいます。ペレアはヘロデ・アンティパスが統治していた場所です。ヘロデ大王の息子の一人であるヘロデ・アンティパスは邪悪な男でした。彼は結婚していましたが、身内でもある兄弟の妻に欲情し、自分の身内である兄弟の妻をめとって結婚しました。そしてそれがバプテスマのヨハネとの直面につながりました。マルコによる福音書第 6 章 17 節です。

ヘロデは、自分の兄弟フィリポの妻ヘロデヤと結婚していたため、ヨハネを捕らえて牢につながせました。ヨハネがヘロデに、「兄弟の妻をめとることは律法で禁じられている」と言っていたからです。異教徒だからといって、自分の妻と離婚することはできないし、妻と離婚して他人の妻を奪うことはできない。それは姦淫です。ヘロデヤはそれが気に入らなかったのです。彼女はヨハネに恨みを抱いており、彼を殺したいと思っていた。しかし、その方法が思いつきませんでした。

結局、何が起こったかはご存じでしょう。娘が踊り、王は愚かな約束をし、ヨハネの首が皿に盛られ

ました。ヨハネはヘロデ・アンティパスとヘロディアの離婚に立ち向かい、命を落としました。これらにより、アイデアとして賢い考えでした。なぜなら、彼らは今ヘロデ・アンティパスの領土にいるからです。彼らはマカエロスの要塞から遠くないところにいたかもしれません。そこはバプテスマのヨハネが監禁され、斬首された監獄です。そして、もし彼らがイエスにヨハネと同じことを言わせることができれば、ヘロデとヘロディアの怒りを買ってイエスを斬首することもできるかもしれません。

離婚に対するバプテスマのヨハネの見解は、彼の首を失わせました。そして、彼らがイエスの見解を聞いたとき、イエスも首を失うかもしれません。これは非常に邪悪な攻撃であり、イエスの信用を失墜させ、さらには破滅させるものです。イエスはどのように反応するのでしょうか。いつものように、完璧です。私はそれを説明と呼びましょう。イエスはすぐに説明を与えます。3節、「イエスは答えて言われた。『モーセはあなたがたに、何と命じていますか。』」この一言で、イエスは伝統を捨て、この件について意見を述べたすべてのラビ、すべての人間の意見、すべての一般的な社会制度を捨て、何に戻ったのでしょうか。聖書です。

モーセは何と言ったのでしょうか。モーセはモーセ五書を書いた人でしょうか。イエスは彼らの質問を避けませんでした。彼らの習慣、彼らの社会的行動、彼らのラビ、彼らの伝統を通り抜けて、永遠の神ご自身の御言葉に至りました。神は何と言ったのでしょうか。「彼らは言った。『モーセは、離婚状を書いて妻を離別することを許しました。』」イエスは言われた。『モーセは、あなたがたの心がたくななので、この命令をあなたがたに書いたのです。しかし、創造の初めから、神は、人を男と女に造られたのです。それゆえ、人はその父と母を離れ、ふたりは一体となるのです。それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。』」これは創世記に書かれていることをそのまま朗読しただけです。

離婚が律法にかなわない4つの理由

神が離婚を嫌う理由は4つあります。6節まで読み進めてください。次は離婚問題について話をします。離婚が律法にかなわない理由は4つあります。

まず、5節で、マタイはこう付け加えています。「それを、あなたがたは読んだことがないのですか。」モーセの律法の専門家であるあなたがたは聖書が読めないのか。これは皮肉な非難です。マタイの記録にあるように、イエスはこう言っています。「それを、あなたがたは読んだことがないのですか。創造者は、初めから」創世記1章27節、「神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。」創世記1章27節を忘れたのですか。アダムとイブを忘れたのですか。そして、この聖句は結婚のために「男と女とに」と強調しています。

1番目の理由：1人の男性と1人の女性

さて、ここで重要なのは、一夫多妻制の規定がないことです。アダムとイブに加えて、サリーとアリスがいるわけではありません。離婚の規定もありません。選択肢や代替案として、独身女性が数人いるわけではないからです。創造の秩序において、男性は1人、女性は1人でした。スペアパーツはありません。スペアの人間はいません。彼らは互いのために創造され、他の誰のためにも創造されませんでした。彼らの結合は完全で、彼らの結合は唯一無二であり、彼らはすべての人が従う

べき模範です。すべての結婚は、1 人の男性と 1 人の女性の解消不可能な結合であることに変わりありません。

そして、他の人々に対する規定はありませんでした。議論は明白です。アダムとイブの場合、離婚は勧められないだけでなく、間違っているだけでなく、どちらかが結婚できないのなら結婚は不可能なのです。

2 番目の理由：結びつきの強さ

1 つ目は、結婚が 1 人の男性と 1 人の女性であるという点でした。2 つ目は、結びつきの強さです。7 節、「それゆえ、人は父母を離れ」、マタイは「妻と結ばれ」と付け加えています。これは創世記 2 章 24 節です。これは神が定めた結婚観です。結婚は独立した強い結びつきです。父母を離れます。以前の家族の絆を断ち切ります。そして、創世記 2 章 24 節から引用されたマタイ 19 章 5 節の言葉では、「妻と結ばれ」または「付着する」とあります。この言葉の意味は接着剤です。文字通りくっついているのです。

それは、腕の長さほど離れた関係ではなく、様子見が出来るトライアルでもありません。あなたたちはくっついて結びついています。そして、その言葉には、固く結びつくという考えも含まれています。固く結びついて、心と意志と精神と肉体と感情が一つになるために、お互いに一生懸命に追い求め合う二人の人間です。結婚のユダヤ語はキドゥシーン (kiddushin) です。それは聖化または聖別を意味します。これら二つの言葉は、特別な用途のために完全に切り分けられたものを意味します。それは、神に捧げられたものを、神の独占的所有物、神の個人的な所有物として表現するために使われました。

神に捧げられたものはすべてキドゥシーン (kiddushin)、つまり神に捧げられ、神に聖別されたものであり、他の目的のために捧げられたものではありません。したがって、これは結婚を表す言葉となり、人々が配偶者に自分自身を捧げ、完全な献身を意味します。彼らはその相互の契約の中で、相手の独占的所有物になります。神に捧げられた犠牲が神の独占的所有物であるのと同じように、パートナーとの契約で自分の命を犠牲にすることは、その人をそのパートナーの所有物にします。結婚は、人々が互いに壊れることのない絆で結ばれ、すべてにおいて一つの心、一つの精神、一つの意志を追い求める、解消できない結合です。

3 番目の理由：彼らが一体となるから

神が離婚を嫌う 3 番目の理由は、離婚は 1 人の男性と 1 人の女性の間で行われるものとし、離婚は破られない、聖別された契約であると定めたからだけではなく、3 番目に、彼らが一体となるからです。8 節、「そして、ふたりは一体となる。彼らはもはや、2 人ではなく、一体である。」これは、家族を離れてくっつくという考えを極端にしたものです。1 つを分けることはできません。1 は分割できない数なのです。

その一体性、その不可分性は、この 2 つの産物に見られます。子供です。子供は 2 つの間に生まれたものです。2 つの間に生まれた子孫に現れるのは、不可分な一体性です。つまり、家族は暗黙のうちにこれに関係しています。私たちは皆、離婚が家族を破滅させることを理解しています。

4 番目の理由：結婚は神自身の業だから

そして、神が離婚を嫌う最後の理由があります。それは、結婚は神自身の業だからです。結婚は神自身の業です。この主題に関する最も驚くべき発言の一つである 9 節で、イエスはこう言っています。「神が結び合わせたものを、人は離してはならない。」これは非常に興味深い発言です。結婚は神の業です。私たちはキリスト教の結婚について話しているのではなく、単に結婚について話しているのです。結婚は神の業であり、制度としてだけでなく、すべての結婚は神の業なのです。

二人の結びつきはすべて神の業です。なぜなら、神の至高の計画の目的において、その結びつきから生まれる人生は神の目的のためにあらかじめ定められているからです。私たちは共通の恵みについて語りますが、共通の恵みを利用するための選択肢がたくさんあるということについて話しているわけではありません。結婚はすべて神の行為であり、神は男性と女性に結婚と子供という共通の恵みを授けます。それは神の行為です。神は二人を結び付け、その二人から神自身の目的のためにあらかじめ定められた子孫が生まれます。

これはすべての結婚、すべての出産であることです。それは神の働きです。ですから、神が結び合わせたものをバラバラにしたくないはずで、そして簡単に言うと、自分の結婚を解消してはいけませんし、他人の結婚も解消してはいけません。そうしないと、神の定めた制度を破ることになります。NO です。すべての結婚は神の特定の結合です。

結婚を可能にしたのは神でした。「産めよ、増えよ、地に満ちよ」と命令を下したのも神でした。「人が独りであるのは良くない。彼のために助け手を造ろう」と言ったのも神でした。アダムにイブを連れてきたのも神でした。結婚を尊い状態として設計したのも神でした。聖書はそれを命の恵みと呼んでいます。すべての結婚は、神が男性と女性を結び付けることです。一緒に暮らしたり、不品行にふけったりすることは許されません。契約による結婚には神が関わっています。

さて、神の御業を台無しにしたい人がいるのでしょうか。これは結婚の永遠の結びつきに対する強い証です。「わたしは離婚を憎む。」さて、イエスはここで旧約聖書の結婚観について論じるのをやめますが、私は旧約聖書の聖句を 2 つほど心に思い浮かべて、イエスの言ったことをさらに確認したいと思います。旧約聖書では結婚は非常に神聖なので、いかなる違反も死を招きました。死です。出エジプト記 20 章 14 節、「姦淫してはならない」。そうでしょう。第 7 戒、「姦淫してはならない」。姦淫してはいけません。

もしそうしたらどんな罰が下るのでしょうか？ レビ記 20 章 10 節、「もし人が他人の妻と姦通するならば、姦通した男と姦通した女は必ず殺されなければならない。」 処刑です。かなり深刻です。神は結婚の契約をそれほど深刻に受け止めており、それを破った人々を処刑するのです。

他の不法な性関係はどうでしょうか？ 婚前交渉はどうでしょうか？ 旧約聖書では、婚前交渉に対する罰はどのようなものなのでしょうか？ レビ記 19:20 によると、旧約聖書では婚前交渉に対する罰は鞭打ちです。しかし、絆を断ち切る姦淫は死刑です。結婚はそれほど神聖なのです。実際、十戒の最後はこう言っています。「隣人の妻を欲しがってはならない」。出エジプト記 20 章 17 節。他人

に欲情して自分の結婚や他人の結婚を破綻させたいという願望さえも禁じられています。イエスが「だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。」と言ったのは、まさにこのことを意味していたのです。マタイ 5:28 です。

結婚の不履行は重大です。旧約聖書では死刑が定められていました。そして十戒の一つは、そのような究極の行動を生み出すような好色な態度や衝動を育むことさえ禁じています。精神的にも肉体的にも、結婚の不履行は禁じられ、非難されています。

さて、あなたは「なぜそんなことがこんなにも起こるのだろうか？」と言うでしょう。それは、私たちはみな罪人だからです。私たちは堕落した世界に生きており、私たち自身も堕落しています。なぜそんなことがこんなにも広まっているのでしょうか？それは、結婚生活の現実の一つとして、キリストの力と聖霊の力で克服しなければならない葛藤が存在するからです。

このことに関する手助けをさせてください。創世記 3 章に戻ってください。次回に続きますが、今はこれで終わりにします。これは重要です。創世記 3 章、神が定めた理想的なものが、一体どのように堕落したのでしょうか。私が今言ったことから、主の時代のパリサイ人たちの状態にどのように至ったのでしょうか。どうして彼らは離婚にそれほど慣れることができたのでしょうか。何が起こったのでしょうか。どうして彼らは姦淫や再婚にそれほど慣れることができたのでしょうか。人間関係、結婚には悲劇的な現実が働いており、それは堕落から生じます。創世記 3 章には、もちろんアダムとエバの罪の記録が残されています。彼らは堕落し、みじめさと堕落に陥りました。

そして、神は 16 節で女性に、17 節から 19 節で男性に呪いを宣告します。男性は仕事において呪われ、女性は自分の領域、子供、そして夫に関して呪われます。夫に関しては、まず 16 節の終わりに「あなたは夫を恋慕うが、彼は、あなたを支配することになる。」とあります。子供に関しては、「わたしは、あなたのうめきと苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。」とあります。産みの苦しみです。産みの苦しみは呪いの一部であり、母親の心を痛める可能性のある、子供との長期にわたる闘いも呪いの一部であると思います。

しかし、16 節を見てみましょう。夫と妻に関する呪いのこの側面です。「あなたは夫を恋慕うが（あなたは欲するが：desire）」と、女性にイエスは言われます。「あなたは夫を恋慕うが、彼は、あなたを支配することになる。」これは表面的には呪いのように聞こえますか？これを見て、「なるほど、そうあるべきなんですね。私は夫を恋慕い、愛と愛情とリーダーシップと名誉の点で彼を恋慕い、彼は私を導き、指示し、支配するはずです。」と言いますか？いいえ、それは聖霊の証印によるものであり、元の呪いのそれとは非常に異なるものです。

あなたの欲求は夫に向けられ、夫はあなたを支配する。これは呪いです。これは、夫に対する通常の恋愛感情のことではありません。女性が夫に対して抱く、ある種の魂的な心理的魅力のことでもありません。これは、妻を守り、養い、世話するという夫の通常の実感のことでもありません。これは呪いです。

「あなたを支配する」から始めましょう。ヘブライ語は「マシャル (mashal)」です。七十人訳聖書、

またはギリシャ語の同義語は「カティステミ (kathistēmi)」で、役職に就く、つまり役職に就く、公式の地位に昇格するという意味です。ここに呪いがあります。ここに呪いがあります。「あなたの夫は今やあなたの支配者として就任し、あなたを従わせます。」すごいですね。かつてあなたたちはチームとして一緒にいましたが、彼が最初について、あなたたちは彼の側から出て彼の助け手になりましたが、あなたたちは子を生み、増え、園を管理し、共同統治者として完璧な相補関係で創造物を統治するはずでした。

今はそうはいきません。夫は権威主義的な立場に就くことになります。決してそのように意図されたものではありません。そしてあなたの欲望は夫に向けられるでしょう。これはどういう意味でしょうか？ 欲する (desire: 恋い慕う) - 「欲する」と訳されている言葉は、モーセ五書の中では他に1回だけ使われています。それは創世記4章7節です。創世記4章7節を見てください。神はカインに語りかけています。その節の真ん中に、「罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている (欲している: desire)。だが、あなたは、それを治めるべきである。」とあります。まったく同じ用語、同じ言葉です。罪はあなたを支配しようとしており、あなたはそれを制御しなければなりません。

これは 3:16 の呪いの言葉と同じです。「あなたは夫を恋い慕うが(支配したいが)、彼は、あなたを支配することになる。」すごい。まさにその通りです。呪いとは、女性が自立しようとし、支配しようとし、自分の意志や、やり方を求め、男性が反抗を抑えようとする、家の中で争いが起きるといことです。どちらも堕落しており、醜い状況になります。そして私たちはそれを女性解放と男性優位主義の衝突として知っています。堕落した女性は利己主義と強い意志、強い欲望に呪われ、自分のやり方を望み、そのせいで反抗的になるので、家庭内で争いが起きるのです。

そして、彼女が反抗的な態度をとると同じように、男性も無礼で、不親切で、支配的な態度をとります。これが離婚につながる対立です。別れて、終わらせるのは簡単です。もう彼女は好きではありません。もう彼も好きではありません。彼女と一緒に暮らしたくありません。彼と一緒に暮らしたくありません。そして、私にとってもっと良い人を見つけました、となるのです。

それで、イエスはここで彼らにこう言っています。「旧約聖書に戻ってください。争いを認めることはできますが、それが一人の男性と一人の女性、生涯にわたる強い絆、神の業であるという事実は変わりません。そして神は離婚を憎みます。」争いや困難があるところでも — 私たちが堕落しているので、それは必ず起こります — あなた方は一緒にいて、その一体感を懸命に追い求めます、そして神はその結びつきを祝福します。しかし、神は離婚を憎みます。

それであなたは言うでしょう「では、離婚への余地はないのでしょうか？」そうですね、例外条項があることは既に知っていますよね？ 次回それについて調べます。祈りましょう。

あなたの人々と交わり、あなたの真理と御言葉に目を向けることができた素晴らしい朝でした。それはとても豊かで、とても明快です。祝福の場所に生きるために、ユダが言ったように、神の愛の中に、祝福が降り注ぐ場所に自分自身を保つために、私たちが知る必要のあることをあなたが私たちに教えてくれたことに感謝します。

結婚を祝福してください。この会衆のすべての結婚、この教会のすべての結婚を祝福してください。聖霊が、その驚くべき力と神の恵みの力で、私たち全員の墮落にとってとても自然な、そして呪われることの一部である葛藤を和らげてくださいますように。

キリストにおいてのみ、二人の罪人の結合の中に人生の喜びと愛と満足の道を見つける力が得られることを私たちは知っています。ですから、あなたが私たちの中で、そして私たちを通してできること、そして私たちの救い主の働きを通して、なさってくださっていることに感謝します。

主よ、私たちを使って周りの人たちに祝福を与えてください。多くの人がこのことに苦しんでいます。あなた無しでは望みがないことを彼らに知らせてください。しかしキリストにおいて、最悪に見えるものから最善が生まれることがあります。キリストの名において感謝します。アーメン。